

さんむのふるさと散歩

NO.15

山武地区の獅子舞

ぞれ異なる系統のものです。

埴谷に伝わる二人立の獅子舞

では北東部から南部にみられます。

一方、椎崎の獅子舞は風流系と呼ばれるも

芸術の秋、文化の秋、さわやかな季節を迎えて、秋はさまざまな催し物が開催されます。なかでも各地区に伝承されている秋の祭礼は、農作物の収穫後に行われる晴れやかな行事です。

今回は御神輿とともに、祭礼のもう一つのみどころとも言える獅子舞について、山武地区のものを紹介します。

現在、山武地区には埴谷・椎崎・森・下布田などに獅子舞が伝承されています。

埴谷・森・下布田に伝承されているものは布で胴体をつくり2人で1匹を操るもので二人立と言います。椎崎に伝承される一人用の獅子頭は一人立と言い、頭にかぶり群舞する(3人で舞うもので、それ



埴谷の獅子舞

を持ち全国を巡って、神札を配り、竈祓いや村の辻での悪魔祓いとして行つたもの(伊勢の太神樂)を地元の人々が習い覚えたものと言われています。

太神樂は獅子舞と曲芸から成り立っています。話しが少しそれますが、曲芸はその後、舞台芸として発展して今に至ります。

「いつもより余計に回しています」と、はやしながら蛇の目傘の上に色々な物を乗せて回したあの海老一染之助・染太郎さん達の芸ですね。

現在ではみることができませんが、埴谷では梯子の上で舞う「梯子獅子」という曲芸的な舞もある時期までは行われていたようです。

なお、伊勢の太神樂系獅子舞は西日本側に多く伝承され県内

民の間に流行した「お伊勢参り」で有名な伊勢神宮の神人(下級の神職等)からなる芸能集団が、参詣のお礼として御神体の獅子頭

鼓(小さな太鼓)を打ち鳴らしながら舞うので、鞨鼓獅子舞とも呼ばれています。この獅子舞に用いる獅子頭はもともとシカ(昔はカノシシとも言いました)やイノシシ等の「シン」などの獣の頭を模したものとも言われています。

その割りには、椎崎の獅子頭は、逆立つたタテガミと猛々しい表情から埴谷の獅子頭よりも、ライオン(獅子)らしくみえるのは不思議です。

埴谷の獅子舞は日吉神社、椎崎の獅子舞は八幡神社で10月の第2土曜日曜前後に開催される祭礼でみることが出来ます。今年は終了しましたが今度、機会があつたら訪ねてみてはいかがでしょうか。



椎崎の獅子舞